

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立小中一貫校 富士校小学部

校長名 小川 徳 晃



令和2年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

記

1. 学校の教育目標

はじめに

豊かな自然に恵まれ、保護者の熱い愛情を受けて温かく育てられ、地域の方々にも温かく見守られ、素直で純朴な児童たちである。全学年の児童が豊かな自然環境や毎月の俳句教室等を通して、豊かな感性を身に付けている。反面、どの学年も15人前後の小規模学級のために学級における人間関係が固定化しており、お互いに切磋琢磨して高め合う場や様々な人と幅広く交流する機会が限られている。

このような児童の実態を踏まえて、確かな学力を育成するとともに、温かい人間関係にあふれ、地域や地域外施設などとの交流体験活動を積極的に取り入れて幅広い社会性を身に付けさせ、先行き不透明なこれからの時代をたくましく生き抜く児童を育成したい。

(1) 学校教育目標 (小中一貫校共通目標)

地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成

佐賀市の学校教育目標『ふるさと「さが」を協働でつくる個性と創造性に富む人づくり』を受け、小中一貫校として児童が小学部の時から夢や高い志(「かしこく」)をもち、その実現に向けて学ぶ意欲を高めさせ、日々の地道な努力を継続する児童を育成したい。様々な困難に出会っても、夢や高い志の実現に向かって、あきらめずたくましく生き抜くチャレンジ精神(「たくましく」)を身に付けさせたい。あわせて、伸びゆくためにも、豊かな感性を身に付け、他者への温かい思いやりの心(「やさしく」)など、心豊かな人間性を育んでいきたい。

☆地域を担う夢に向かって伸びる富士っ子 「かしこく」「たくましく」「やさしく」

めざす子ども像

♥ ふるさとを誇りに思い、愛着を抱く子ども

- ・意欲的に学び、自らの学びを創る子ども
- ・思いやりあふれる、心やさしい子ども
- ・粘り強く最後までやり抜く子ども

めざす学校像

- ・創造的で明るく活気ある学校
- ・温かい人間関係に溢れた学校
- ・保護者や地域に信頼される学校

めざす教師像

- ・情熱と使命感に溢れる教師 (率先垂範)
- ・自己を磨き、創意工夫する教師 (切磋琢磨)
- ・共に学び、共に働く教師 (師弟同行)

☆小中一貫教育を通して、「かしこく」「たくましく」「やさしく」生き抜く児童を育成

- 9年間の学びをつなぎ、確かな学力をつけ、豊かな学びを創造する教育活動の充実 《かしこく》
- 様々な困難に出会ってもくじけずあきらめない強い心と健康な体を育む教育活動の推進 《たくましく》
- 他者との関わりを通して豊かな心を育む教育活動の充実 《やさしく》

合言葉：自分で考え、必ず実行！！ キラリ輝け富士っ子

(2)【令和2年度 学校経営方針】

① 規範意識の高揚と発達段階に即した教育の充実<市:基礎学力を持つ子どもを育てる>

- ア その学年で身に付けさせておかなければならないことは、身に付ける教育を行うこと
☆スキルタイム(富士っ子メソッド・・・読み・書き・計算等) →個別の支援
- イ 学習の成果を立証することができること。
(何が、どのように、成長したのかが説明できる。保護者には成長の度合いが見えてくる。)
- ウ 富士っ子マナーの徹底:
① 元気にあいさつ・返事 ②読書 ③言葉遣い ④整理・整頓(スリッパ・くつ)
- エ 立腰教育の実践

② ”楽校共育”の実践<市:倫理観・社会常識を持つ子どもを育てる>

- ア 児童:「勉強がわかる」「よき友がいる」「将来の自分に役立つことができる」
「尊敬する先生がいる」など自己存在感を感じ取れるような楽しさを創る。
- イ 職員:「働く生きがいがある」「相談できる同僚・先輩・上司がいる」
「共通理解・共通実践ができる」などが職務意欲と連帯感を創り出す。
- ウ 児童が相談できる絆づくり
① 毎日の健康観察→「心のアンケート」→面談→対応☆「心のアンケート」(9年間校長室保管)
② 楽しく・分かる授業づくり ③支持的風土の学級づくり

③ 地域に根ざした学校づくり<市:ふるさとを誇りに思い愛着を持つ心情を育てる>

- ア 地域社会がサポーターになってくれる学校づくりを全職員で推進する。
☆佐賀市まなごし運動への参加 「地域学校協働活動推進員」申請中
- イ 地域社会に誇れる特色ある活動を展開する。富士小名物を創造する。
①年間通した野菜学習 ②ボート体験(企業団との連携) ③笹沢佐保記念館との連携
④ スキー学習(公民館・市子連) ⑤ 菖蒲ご膳での学習
- ウ 富士校コミュニティスクール(3年目)に向けた取組(運営協議会事務局 小学部)
① 全保護者・地域へパンフレット配付 ② 地域公開授業(6月)の開催
③ 学校運営協議会 委員の組織改編(数年後を見据え)

④ 「働き方改革」の視点を意識しての業務改善 「月45時間、年間360時間を超えない」

- ア 働き方改革の視点である業務改善も意識し、私たち職員にとって働きがいのある職場になるように、職員同士互いに、声をかけあい励まし合う職場づくり
モットー:「笑顔あふれ 互いに支え合う ワンチーム富士」
- イ 業務の役割分担・適正化を図るために、日頃の業務を見直していく。
①通知表の所見・総合・外国語活動・道徳などの記述についての削除⇒成績2期制への準備
- ウ 職員からの意見を収集し、「業務改善委員会」で対応策を検討する。7月・12月・2月
- エ 勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を図る。
①「学校の定時退勤日(金曜日に設定)」の徹底を図る。
②各自で、「定時退勤日」を学校の定時退勤日以外で週1回必ず設ける。

⑤ 持続可能な社会づくりを構成する「6つの視点」を意識した教育(ESD)を行う学校づくり

- ア 学習活動の活動目標に「持続可能な社会づくり」の視点が含まれるように設定する。
- イ 学習のプロセス(学びの在り方)が、文化や意見が違うこと、互いに関わり学び合うことなどを尊重するやり方になっているか見直す。
- ウ モノ・人・事柄(知識、価値観、行動など)の「つながり」をより持続可能な在り方に再構成していく。
「学びがどう未来につながるのか?」「誰と一緒に学ぶのか?」「何と何を関連付けて学ぶのか?」が意識されているかを見直す。

2. 本校の教育の特色

(1) 9か年の学びをつなぐ教育活動の推進（4.5km校地の離れた小中一貫校）

・「豊かな心をはぐくみ、確かな学びをつなぐ」小中一貫教育の研究の推進

☆6月6日（土）第3回地域公開授業の開催（異学年交流・乗り入れ授業）《土曜授業日》

- ・小中9か年の系統的・継続的な教科指導・生徒指導の実践
- ・学年ブロック（4・3・2）制による発達段階と特性に応じた学習指導・生徒指導の実践
- ・UD教育の視点を取り入れた実践（小中一貫で実践）

★外国語活動及び教科「外国語」の実践（1～2年 10時間 3～4年 35時間 5～6年 70時間）

佐賀市教育委員会研究委嘱（H30～H31）での研究発表での作成した教材を生かし、中学部につなぐ

- ・小中合同の体育大会に向けた取組を通した、小中学校の教職員の協力体制づくり

(2) 「個を生かす集団づくり」をベースとした温かさあふれる教育の創造

- ・児童どうしの「容認、支援、自律」の活動内容を援助する、いわゆる「支持的風土」の醸成
- ・児童理解を踏まえ、個に応じたきめ細かな学習指導の実践（楽しく・分かる授業づくり）
- ・地域の自然や「ひと・もの・こと」等との関わりを大事にした豊かな心を育む教育活動の充実

(3) 地域力を生かした教育活動の推進

- ・「子どもまなざし運動」の継続及び「地域学校協働活動推進員」申請中
- ・「コミュニティスクール」（学校運営協議会H30～R2）を核とした教育活動の推進
- ・地域連携による「ふるさと学習」・交流学习の推進
- ・家庭との連携・協力による家庭学習・生活習慣づくり
- ・異学年（小小、小中）・異校種（幼・保・中）交流活動の推進

(4) 佐賀市の特認校制対象の学校

・市内のどこからでも選択できる学校《特認校対象校》（保護者の責任のもと通学）としての対策

→・特別支援学級児・不登校児等への対応と施設・設備の充実

※特認校制度利用者：平成30年度・不登校児1名（完全登校へ）

※隣接校制度利用：平成25年度1名 平成29年度1名 平成30年度2名

3 教育計画

(1) 本年度の教育の重点 (学校評価重点目標と共通)

<重点①> 基礎学力を身につけさせ、思考力・表現力を高め、**学力の向上を図る。**

- 9年間の学びを見据えた学習過程を確立する。
 - ・ 9年間を貫く**問題解決的な学習スタイル**を実践する。
 - 《H30～H31は、外国語活動及び教科「外国語」の実践》
 - ☆「めあて」「自力解決・話し合い活動」「ふり返り・まとめ」の学習スタイルの確立
 - ☆「聞く・書く・考える・話し合う」場の設定 ☆ICTの利活用
 - ・「自信」と「認め合い」の視点を取り入れた言語活動を位置づけ、学習指導の充実を図る。
 - ・「付けたい力」を明確にした「小中一貫教育カリキュラム」に則った学習指導、「乗り入れ授業」を継続して実践する。
 - ・ 9年間の発達段階を見通し、学年ブロック(4・3・2制)の特性を生かした学習指導を計画・実践する。
- 個に応じた学習指導を計画的・継続的に実践する。
 - ・**スキルタイム(富士っ子メソッド・・・読み・書き・計算等)** 学期はじめに、算数・国語の基礎学力テストを行い、合格点に達していない児童については、級外で定着に向けた組織的取り組みを行う。
 - ・ 読書推奨(ソムリエカード)で多くの本に触れる機会を提供する。(カードの工夫改善の予定)
 - ★学校長からの表彰
 - ★ソムリエカード4枚ごとに表彰

<重点②> 自他の命を大切にし、郷土を愛する心豊かな児童を育てる。

- 道徳教育・人権同和教育、外国語活動の系統的・組織的な実践の充実を図る。
 - ・ **特別の教科「道徳」の実践** ふれあい道徳 人権教室
- 「いじめ根絶」に向けて、未然防止、早期発見・早期対応を柱とした組織的な対応を行う。
 - “子どものサインを見逃さない” →職員同士で話題にする →観察
 - 全職員による「いじめ・いのちを考える日」(毎月1日)の取組・実践
 - アンケート実施→面談→管理職への報告→対応策・体制の協議→経過観察 **(繰り返し徹底する)**
 - Q-Uテスト(年2回)を活用した学級の実態把握、個に応じた指導・支援
- 朝・帰りの会、総合的な学習の時間、特別活動、外国語・外国語活動を中心に温かい人間関係を育成する。
- 地域人材・教材を活用した「ふるさと学習」の活動を推進する。

<重点③> 心身ともに健やかでたくましい児童を育てる。

- 9年間を通した基本的な生活習慣や学習習慣を確立する。(小中一貫した生徒指導の推進)
 - 「学びの心得」「家庭学習の手引き」「生活振り返りカード」の活用
 - 「すこやか週間」の学期ごとの実践
 - 「富士中校区すこやかプラン」による家庭への啓発
- 特別支援教育を組織で推進し、児童が温かさを感じとれる個に応じた指導を推進する。

<重点④> 地域に信頼される「開かれた学校づくり」の一層の推進を図る。

- 各種地域団体・地域住民との連携を強化して、学校行事・教育活動の充実を図る。
- 保護者や地域住民への積極的な情報発信・受信に取り組み、情報の共有化を図る。
 - ・「学校便り」「学校ホームページ」の活用
 - ・「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」との連携

(2) 佐賀市の特色ある取組について

① 幼保小中連携の取組

- 保育園参観，小学校参観，担当者同士の連絡会を，それぞれ年1回以上実施し，園児・児童の様子や保育環境・学習環境の現状を把握し，情報の共有化を図る。
- 生活科の学習活動（つなぐ交流会）や学校行事（体育大会）への招待，園の行事（鑑劇会・運動会・お茶会）への参加を通して，園児との交流を深める。
- 双方の行事（入園式・入学式・運動会・富士小フェスタ・卒園式など）へ職員が参加して交流を図り相互理解を深める。
- 入学直後は「えがお・わくわく」を活用して実態に応じた丁寧な指導を行い，なめらかな接続を目指す。

② 「いじめ・いのちを考える日」の取組

- （佐賀市教委と連携して）毎月第1水曜日の朝の時間を，「いじめ・命を考える日」として各クラスでの取組を行う。
 - ・ 担任による講話や読み聞かせ等を実施する。
 - ・ 毎月1回ほかほかタイムを設定し，「心のアンケート」（児童の意識調査やいじめ調査）を実施し，「いじめ」等が疑われる場合は，児童の思いをしっかりと受け止め，チーム学校として早期対応・早期解決を図る。
 - ・ 毎学期の始業式の日，全校児童で「いじめ0の約束」を唱和する。
- 「人権・同和教育」の推進
 - ・ 第4水曜日（年6回）に「人権教室」を実施し，全校集会や各学年で思いやりの心を育てていく。
 - ・ 1年間の取組の最後に児童全員に1年間を振り返らせ，自分のがんばりと課題を確認させる。
- 家庭・地域との連携
 - ・ 年1回「いじめに係るアンケート」を児童・保護者に実施し，「いじめの早期発見」を心がけ，気になる行動等があった場合は保護者・関係機関等と連携し，早期対応・早期解決を図る。
 - ・ 「心のアンケート」で気になることは保護者と連携し学校での児童の様子を積極的に伝えていく。

③ 市民性を育む取組

- 佐賀市の推進する「まなざし運動」を児童や保護者に紹介し，地域行事に積極的に参加するよう呼びかける。
- 地域の施設「なごみ荘」や「富士学園」と連携し，施設の方との交流を体験させる。
- 「感謝の会」を開催し，お世話になった地域の人への感謝の気持ちを伝え，交流活動を行う。
- 総合的な学習の時間，外国語・外国語活動などに，地域教材・地域人材を多く活用し，キャリア教育を含め地域の良さに触れる学習を行い，地域力を体感させる。

④ 「土曜授業」の取組

- 増加した12時間（3時間×4回）のうち，基礎学力向上のため国語，算数を3時間以上増やす。
- 6月は地域公開授業とし授業公開をする。学年によっては，小中一貫教育に関わる交流活動も行い，地域・保護者と一体となった教育活動を地域へ発信する。
- 親子のふれあいを目的に「親子ふれあい活動」を各学年，土曜授業の日を中心に計画する。

(3) 指導の重点7項目

① 「いのち」を守る教育の充実（安心・安全な学校づくり）

- ・ 今年度の命の大切さの指導については「親切・思いやり」や「生命の尊さ」等を指導の重点にし，家庭や地域と連携しながら道徳教育を進めていく。
- ・ 道徳教育の全体計画及び別業を見直し，学校教育全般を通して行う道徳教育の改善・充実を図る。
- ・ 道徳の時間には「新しい道徳」等を活用し，問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ，考え議論する道徳の指導方法を工夫する。

- ・「ふれあい道徳」などで授業を公開し、保護者や地域社会に学校の取組を示していく。
- 地域と連携して安全指導を徹底し、危険から身を守る方法や手段を身につけさせる。
 - ・防災訓練（火災・地震）を実施し、災害時の対応マニュアルを身につけさせる。
 - ・不審者避難訓練を実施し、校内外での対応の仕方を学ばせる。
 - ・防犯ブザーの携帯を徹底し、点検を各学期1回行う。
 - ・校区内にある『ふじ自動車学校』と連携し、4月に交通安全教室を行う。

②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善(学力向上)

- ・学年毎に、小中9年間を見通した教科等年間カリキュラムを作成し、それを基に計画的に指導を行う。
- ・児童の実態に応じて教科や単元を精選し中学校教諭の専門性を生かした効果的な乗り入れ授業を行う。
- ・小中が連携して作成した「家庭学習の手引き」を保護者に配布し、家庭学習を充実させる。さらに、長期休業中の家庭学習の成果を確認するために「富士っ子チャレンジテスト（漢字・算数の基礎基本）」を実施して、全児童合格（80点以上）を目指す。
- ・基礎基本の定着をはかる「朝のスキルタイム」を、計画的に行う。
- ・主に問題解決型の学習場面、少人数グループによる「伝え合い」を仕組み、相手意識をもって自分の考えを工夫しながら伝えることのできる児童の育成を目指す。

「主体的な学び」

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげる。
- ・キャリアパスポートなどを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする。

「対話的な学び」

- ・実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、地域の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める。
- ・あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。
- ・子ども同士の対話に加え、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る。

「深い学び」

- ・事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む。
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく。
- ・感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく。

③特別支援教育の充実

- ・特別支援教育校内委員会を組織し、担任と特別支援教育コーディネーターを中心に支援計画の方向性を協議する。
- ・個別の教育支援計画及び指導計画を作成し、児童の実態把握と支援の方法について共通理解を図る。
- ・毎月の教育相談・生徒指導協議会で、支援を要する児童についての情報交換を行い、職員の共通理解を図る。
- ・配慮を要する児童に関して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携を図る。
- ・児童生徒理解をより深め、適切な支援ができるようにするための校内及び小中合同の特別支援教育研修を実施する。
- ・支援を要する児童生徒の実態や手立てについての情報を共有できる場を小中合同で定期的に設定する。

④生徒指導の充実

- 小中共通の生徒指導体制のもとに組織的な対応を行い、日々の児童観察と情報の共有化、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。
 - ・毎月「こころのアンケート」をとり、「いじめ」等気になることを把握し、早期に対応する。

- ・児童の心に寄り添い、悩みや困ったことを気軽に相談できる好ましい人間関係を作る。
 - ・毎月、教育相談・生徒指導協議会を開き、児童理解の深化を図る。
 - ・「個人カルテ」を活用して、児童の指導・支援方法を検討する。
- 不登校児童に対して、組織的な対応や支援を行う。
- ・「グループローラー作戦」を基に、校内でチーム体制を整え、具体的な支援に当たる。
 - ・定期的に校内ケース会議や外部機関を交えてのケース会議を行う。
 - ・登校時に利用できる別室（教育相談室）の環境を整える。

⑤人権・同和教育の充実

○人権・同和教育の推進

- ・毎月第1月曜日の朝の時間を、「いじめ・命を考える日」として位置づけ、年間計画をもとに「いじめ」や「命」について指導をしたり、「心のアンケート」を実施したりして、「いじめを絶対に許さない」雰囲気醸成していく。
- ・6月と12月にQ-Uテストを実施し、分析や対策については低中高グループ及び級外職員、管理職も交えてチームで行うようにし、児童の実態を把握する。また、毎月実施する「心のアンケート」で、いじめにつながるような回答がみられた時は、早急に管理職や生徒指導担当、教育相談担当等へ連絡し、対応を協議する。
- ・每学期始めに佐賀市小学生いじめ0の約束「レインボー作戦」の唱和で、「いじめ」に対する考え方や意識を確認する。
- ・子どもの心・子育て支援に関する教育講演会をPTAと連携して年に1回以上実施する。
- ・やさしさ部が中心となり、児童の実態に応じて「人権教室」の内容を吟味し、全校での取り組みを行う。その中で、人権標語作りやエンカウンター等に取り組みせ、各クラスでも振り返り活動を行うことで、発達段階に応じた人権意識を育む。
- ・「人権教室コーナー」を設置し、人権教室後の児童の振り返り作文等を掲示し、多様な考えに気づかせる。

⑥グローバル時代に対応する外国語教育の充実

- ・文科省発行のテキスト“Junior Sunshine “Let’s Try!”や佐賀市カリキュラムに必要なに応じて適切にアレンジを加えながら単元づくり・授業づくりを行っていく。
- ・中学年では35時間、高学年では70時間実施していく。低学年は、水曜午後のスキルタイムを活用して、年間10時間（1/2単位時間×20回）「英語あそび」として実施する。
- ・特別支援学級では、各学期に1単元ずつ自立活動の一部に外国語を取り扱う活動を年間6時間（1/2単位時間×12回）取り入れる。
- ・児童の身近な話題や他教科での学習、学校行事、地域教材などを取り入れた単元づくりを工夫する。
- ・児童が「聞きたい」「話したい」と強く思えるようなコミュニケーション場面の設定、つまり、英語を「話す」必然性や「聞く」必然性がある場面や状況を設定する。
- ・相手や他者に配慮しながら、気持ちや感情を伝えられるような言語活動を重ねていく。

⑦情報教育の充実

- ・「プログラミング教育」を各教科等の年間指導計画、各学年の発達段階に応じて、意図的・計画的に推進する。
- ・ICT支援員と連携し、各教科等の学習場面における電子黒板等の有効活用を図る。
- ・ICT利活用の研修会を計画・実践し、ICT機器の学習指導への活用場を広げる。
- ・地域や保護者向けの情報モラルや著作権、インターネット上のトラブルについて、広報や講習会等を計画、実施する。

(4)各教科等

各	<p>○9年間を見通して、9年間を貫く学習スタイルを取り入れる。各学年においては、基礎基本の定着を目指し、さらには活用力をつける。</p> <ul style="list-style-type: none">・問題解決的な学習スタイルを取り入れる。・「めあて」を明確に示し、めあてに基づいた「まとめ」や「振り返り」を行う。・自力解決の後に必要に応じて少人数グループで互いの意見や考えを交流し合う場を設ける。・「朝の算数スキルタイム」と「下学年補充の時間（水曜日）」を活用し、基礎的な問題に取り組ませる。・ICT教材の効果的な活用を工夫する。
教	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none">・音声言語活動の充実を図るために授業の中で積極的にペアやグループでの話し合い活動を取り入れたり、スピーチ活動を積極的に行ったりして、表現力の育成を図る。・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して言葉の特徴や使い方を知り、自分の思いや考えを深める学習を図っていく。・漢字や言語事項などの基礎基本の定着を図る。・読書活動を充実させることで、理解力・思考力を深め、言語感覚を養っていく。 <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none">・観察や見学、聞き取りなどの調査活動や具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の充実を図っていく。・社会事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを説明したり、立場や根拠を明確にした話し合い活動を行ったりするなど言語活動を重視していく。・図書館やICTを活用して、情報収集やまとめなどを行っていく。・ふるさと学習支援事業を活用し、佐賀市の歴史・文化・伝統等、現地で学び、見識を広げる。
科	<p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none">・数学的な思考力・表現力を育成するために、自分の考えを表現したりペア・グループ・全体で深め合ったりする学習活動を取り入れる。・マスク目を利用し、位取りなど基礎となる力を大切にしたり、見やすく分かりやすいノート指導を行う。・具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり自分の考えを表現したりする学習活動を取り入れる。 <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none">・少人数の利点を生かし、一人ひとりが観察・実験を行うことで、科学的な認識の定着を図る。・児童の知的好奇心や探究心を高めるために、ICTを活用し、観察・実験や自然体験、科学的な体験を充実させた指導の工夫を行う。・実験や観察の結果から言えることを、キーワードを使ってきまりとしてまとめる振り返りを継続して行う。 <p>【音楽】</p> <ul style="list-style-type: none">・少人数の良さを生かし、音楽表現に必要な技能を伸ばすとともに、歌唱、器楽、音楽づくりなどの表現活動に主体的・協働的に取り組ませる。・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができるように指導を工夫する。・ICT機器を活用し、主体的な音楽活動を促すためのより効果的な使い方を工夫する。・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽のよさや美しさを味わわせ、豊かな心を育む。 <p>【図工】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童の感性を働かせながら造形的な創造活動を取り入れることで、作ったり表現したりすることの喜びを味わわせ、豊かな情操を養っていく。・色々な材料や用具を使うことで、表現の仕方などを工夫させ、創造的に作ったり表したりす

	<p>ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わろうとする態度を育成する。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭生活において、課題をもって家族や地域の人々と協力し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫して生活していくことができるようにする。 ・衣食住に関する体験的な活動を通して、これからの生活をよりよくしようとする態度を育成する。 ・消費生活・環境について、課題をもって持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境について考え、工夫した生活を送ることができるよう知識・技能を身につけてさせる。 <p>【体育・保健】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト等の結果を踏まえ、児童生徒の実態に応じた体力向上推進の計画を立て、適切に実践させる。 ・準備運動の中に3分間走や体づくりの運動などを取り入れ、体力の向上に努めるとともに運動量の十分な確保に努める。 ・授業では場面に応じた教師の指導助言、児童の教え合い活動、学習カードの工夫等により、言語活動の質的な向上を図りながら、基礎的な知識や技能を身につけさせ、体力の向上を目指す。 ・けがの防止や病気の予防、こころの健康など日常生活における健康・安全については、養護教諭や担任と連携して指導を行い、知識や理解を深めさせ、児童生徒の資質や能力を高める。 <p>【生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域に関わる活動を通して自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 ・身近な自然を観察したり利用したりする活動を通して気付いたことや楽しかったことなど、言葉、絵、動作など多様な方法により表現させ考えることができるようにする。 ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるように見付ける、比べる、試す、見通すなどの多様な学習活動を行っていく。 <p>【教科 外国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5・6年で年間70単位時間の外国語を実施し、初歩的英語の運用能力を養う。 ・H31年度の取り組みを生かしながら、5・6年生は「Junior Sunshine」（開隆堂）を活用した佐賀市版年間指導計画に沿って実施する。 ・児童の発達段階にあった活動や、児童が興味・関心を持つ教材・教具の開発や工夫を行う。 ・児童の実態に応じた、興味・関心が持てるような単元の内容を工夫する。 ・学級担任、ALTのTTによる指導方法の充実を図るとともに、中学1年生へつながらるような小中連携の取組を進め、外国語への興味関心を高める。
<p>特別の 教科 道徳</p>	<p>○9年間を見通した年間計画に沿って家庭・地域と連携した道徳教育を推進し道徳的な実践力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の年間計画及び別葉に基づき、道徳の時間のみならず全教科、総合的な学習の特質を生かして、意図的・計画的な取り組みをしていく。 ・年に1回は「ふれあい道徳」で授業を公開し、保護者や地域の人に学校の取り組みを示す。 ・「新しい道徳」などの教材を計画的に活用し、道徳的判断力、道徳的实践力を高めていく。 ・「いじめ・命」「人権」に関する内容や「情報モラル」についても発達段階を考慮して取り上げる。 ・問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れるなど、多様な学習の場や方法を工夫する。
<p>外国語 活動の 時間 (3,4年生)</p>	<p>○3・4年生は35時間の外国語活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Let's try 1・2」やこれまで作成した教材の活用 ・ALTと連携した指導 <p>○単元作りを工夫し、児童の興味・関心に合う題材を設定する。</p> <p>○「聞くこと」「話すこと〔やりとり〕」「話すこと〔発表〕」の音声面を中心とした活動を取り入れ、コミュニケーションを図る素地を育成する。</p>

<p>総合的な 学習の 時間</p>	<p>○総合的な学習の時間を探求の時間と位置づけ、地域の自然や人、ものを題材とした中から、4つの観点（課題発見力、課題追及力、表現力、生活に生かす力）に沿って、自ら課題を見つけ追究していくような指導・支援を行う。</p> <p>○地域の人々の技と心にふれたり、地域の豊かな自然環境にふれたりすることにより、地域（富士町）に対する誇りと愛情を持つ子どもの育成を図る。</p> <p>○地域の施設を積極的に活用し、地域との連携を図る。</p> <p>○各教科等の指導との関連を重視しながら、意図的・計画的・系統的に教育活動を行う。</p> <p>3年・・・富士町の野菜・食 4年・・・富士町の環境・福祉 5年・・・富士町の農業・自然 6年・・・富士町の福祉・人権・平和</p>
<p>特別活動 (学級活動)</p>	<p>○主体的な児童会活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等に意欲的に参加させ、集団の一員として責任やルールを守る態度と実践力を育てる。 ・6年生は縦割り班活動（なかよしタイム・なかよし掃除）を中心に、体育大会など各行事を通して、リーダーとしての自覚と資質を育てる。 ・5, 6年生は委員会活動を通して高学年としての責務を果たし、働く喜びを実感して、勤労と奉仕の態度と実践力を育てる。 ・よりよい学校生活を築くために、集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実させる。
<p>キャリア教育</p>	<p>○キャリア教育で育成されるべき4つの能力領域「将来設計能力」「人間関係形成能力」「情報活用能力」「意思決定能力」を意識し、この4つの能力を総合的に高めていくことを目指し取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や学校行事等で、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、生き方や価値観に直接触れさせる。 ・地域のボランティアやJAの協力を得ながら、身近な農業の様子を知り、体験的活動をさせる。 ・保育園や地域施設での交流を通して、いろいろな職種や生き方をされている人々に出会わせる。 ・総合的な学習の時間や各教科等の時間の中に情報を収集しその情報を活用する活動を取り入れる。 ・キャリアパスポートに学びのプロセスを記述し、児童が自身の変容や成長を自己評価するために活用する。
<p>環境教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の4つの柱（①電気のむだをなくします②水のむだをなくします③物・食べ物を大切にします④ゴミを減らします）を教室背面や環境コーナーに掲示して周知徹底を図り、「学校版ISO」への取り組みを継続する。 ・環境・美化委員会の児童を中心に、4つの柱の具体的な取り組み内容（簡単にでき継続できるもの）を決定し、全校で実践する。毎月、「エコチェック週間」と「そうじチェック週間」を交互に行い、それぞれの項目に沿って取り組み状況を振り返らせる。その結果を発表（放送や集会等）したり、ISO新聞を作成したりする。
<p>読書指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアによる「読書タイム」での読み聞かせにより、幅広いジャンルから学年に応じた本を選出して読み聞かせ、読書の幅を広げるとともに読書への意欲を高める。 ・「読書ソムリエ」の取り組みによる各学年の目標冊数を設定したり、各学期末には多読者の表彰をしたりして、読書への意欲を高める。 ・月1回の「図書館便り」の発行を通して良書の紹介や多読者の紹介を行ったり、各学期1回の図書館祭りの開催を行ったりすることで、本のおもしろさや読書の楽しさにふれさせる。 ・季節や行事にちなんだ本のコーナーを設けるなど各時期のお勧めの本の紹介にも力を入れ、児童が本に対してより興味を持てるように工夫する。
<p>食に関する 教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「食に関する教育指導の手引き」等を活用し、「家庭科」「体育（保健）」「学級指導」「給食指導」などの教育活動の中で計画的に推進していく。 ・献立表のメニューについてのコメントを活用し、給食時に放送することで「食」への関心を高めるとともに、献立表配付により保護者への啓発にも繋げる。 ・担任と栄養教諭のTTによる指導や給食訪問等専門家との連携を図り、児童生徒の実態に応じた食育の充実を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の給食週間での取り組みを、委員会を中心に行うことで、食べ物の大切さや作って下さる方々への感謝などを持てるようにする。
<p>教育課題への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識を高める指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ①マナーの習得，ルールを守る意識やモラルの向上を，道徳の時間を要として学校教育全体で推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全校昼会で，各月の生活目標と取り組みについて指導する。 ・教育相談・生活指導協議会で，生活目標の取り組みの振り返りと次月の取り組みの確認を行う。 ・学期末と学期始めに全校集会で長期休業中の過ごし方について指導と振り返りをする。 ②体験活動を通して豊かな人間関係作りを図る。(修学旅行，宿泊学習，バス旅行，社会科学見学，地域施設との交流活動等) ③学校と家庭・地域との連携を進める取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「生活のきまり」「生活の心得」を各家庭に配布し，啓発する。 ・職員による交通指導とPTAあいさつ運動を連携する。 ○ICT利活用教育及び情報教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ①各教科・領域の学習指導において，ICT機器を積極的に活用して授業改善を図る。 ②情報教育については，コンピューターを使った情報収集活用能力，表現能力の育成を図るため，各教科及び総合的な学習の中で，計画的に指導していく。 ③情報モラルやマナーの指導は，各教科等の内容や発達段階を考慮しながら行う。 ④ICT機器の授業活用および情報教育に関する校内研修を実施する。 ○図書館教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館活用を計画的に実施し，読書に親しむ態度と情報活用能力を育てる。 ・「読書センター」としての機能を充実させる。 ・学期に1回「図書館祭り」を実施する。 ・各学年に応じた良書紹介や，学習内容や季節に合わせたブックトークを実施する。 ・読書の学期・年間目標を設定したり読書ボランティアによる読み聞かせ実施したりする。 ・「読書ソムリエ」の取組で，一人150冊をめざす。 ・月2回の「自動車図書館ブーカス」が来る機会を利用し，学校で呼びかける。 ○開かれた学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティースクールを有効に活用し，行事や活動での保護者や地域人材の参加を促す。各種地域団体・地域住民との連携を深めて，学校行事・教育活動の推進・充実に取り組む。 ・「学校だより」の家庭への配布，地域への回覧やホームページ更新など，学校情報の積極的な発信に取り組み，保護者・地域との情報の共有化を図る。 ○持続可能な開発目標「SDGs」への取組 <p>SDGs (エス・ディー・ジーズ) は、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため17の目標が掲げている。ESDを通じたSDGsの達成に向けての学校づくりに取り組んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の活動目標に「持続可能な社会づくり」の視点が含まれるように設定する。 ・学習のプロセス(学びの在り方)が，文化や意見が違うこと，互いに関わり学び合うことなどを尊重するやり方になっているか見直す。 ・モノ・人・事柄(知識，価値観，行動など)の「つながり」をより持続可能な在り方に再構成していく。